



帰国研修員便り

【アクションプラン近況報告】



ギリェルミさん（ブラジル帰国研修員）からアクションプラン近況報告が届きました。

1) コースリーダー： 末田 元

2) 現地活動報告 : Mr. PEIXOTO GOES Guilherme
(ブラジル帰国研修員)

2020年1月7日

(公財) 北九州国際技術協力協会 (K I T A) 研修部

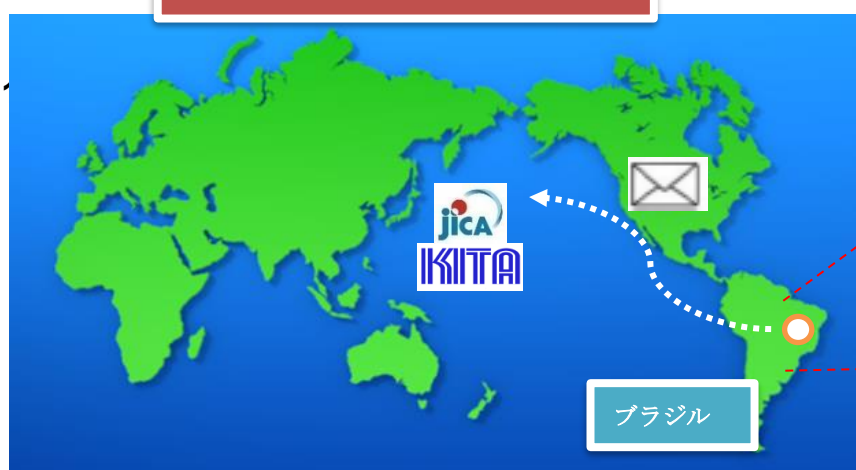
JICA/KITA 技術研修に参加したギリエルミさん（ブラジル帰国研修員）からアクションプランの近況報告が届きました。

今回ご紹介する帰国研修員便りは、2018年度：研修「下水道システム維持管理(B)」コースに参加されたギリエルミさんの帰国後アクションプラン近況報告です。

1. 今回レポートが届いた帰国研修員の紹介

名前(通称)	写真	氏名	国名	研修期間
ギリエルミさん		Mr. PEIXOTO GOES Guilherme	ブラジル	2019/1/18～ 2019/3/1

ギリエルミさんからの便り



ブラジルは、アマゾン盆地がある北部からブドウ畑と壮大なイグアスの滝がある南部までの広大な国土を持つ。リオデジャネイロは活気あふれるコパカバーナとイパネマのビーチ、どんちゃん騒ぎの大規模なカーニバルで有名

イグアスの滝



アルゼンチンとブラジルにまたがる世界最大の滝で、「イグアス国立公園」として 1986 年に世界遺産に登録され

コルコバードの丘 (リオデジャネイロ)



709m の高さから街を 360 度見渡すことのできる「コルコバードの丘」からの絶景は、リオデジャネイロを訪れる観光客は必見

日本人街 (リベルダーヂ)



ブラジル最大の都市・サンパウロの中心部にある「リベルダーヂ」地区。かつて世界最大規模の日本人街として賑わった

2. 研修時の記念写真



世界各国から派遣された研修員（8名）の皆さんは、北九州市（JICA九州）に集まり、「下水道システム維持管理」について勉強しました。

3. 末田コースリーダーよりメッセージ



ギリさんはブラジルのパラナ州上下水道公社（SANEPAR）に勤務している土木技術屋さんです。SANEPAR はパラナ州内の 346 都市を対象に飲料水及び下水道施設を供給することを担っており、SANEPAR 担当区域の下水道は、都市人口のおよそ 71%を網羅しています。それらの都市の内、彼はクリティバ市（パラナ州の州都）を含む 33 都市を対象とした上下水道システムの設計・建設管理を担い、新規施設の建設管理や既存施設の改善なども担当しています。

担当区域の 33 の都市には 26 か所の下水処理場があり、そのほとんどが UASB (Upflow Anaerobic Sludge Bed : 上向流式嫌気汚泥床) を採用しています。しかし、この方法での下水処理では、厳しくなっている環境法に合致させるのが難しく、UASB に代わって活性汚泥法などの新たな技術・処理法への対応や、経済的に実行可能な施設運転となる設計が求められているようです。このような背景からこの研修に参加しました。

7 週間の研修で得た情報や知識を活用して彼が作成したアクションプラン（AP）のテーマは、「日本の専門的知識と手法に基づく維持管理マニュアルの導入」でした。このテーマの背景には、先に述べた環境法を順守した施設管理が求められていること、下水道未整備の地区住民に下水道サービスを提供すること、そのためにはコスト削減と経済的実行可能性を確保する必要があるということが横たわっていたようです。

日本では、40 年を過ぎた下水処理場が現役として未だに正常に活動していること、予防保全という手法で機器設備の耐用年数を伸ばしていることなどを知り、この手法を自国に紹介し取り入れることを考えたようです。このような発想からの AP 作成は、私が今まで担当した約 100 名の研修員の中では初めてで、彼の視点のすばらしさに感心したものでした。

作成した AP の中身には、上層部への説明、AP 実施のために多分野の専門家からなるチームメンバーを選定するなどが書かれていました。今回の報告を見ると、日本で作成した AP 内容そのものが実行されているようです。

また、AP では P-D-C-A サイクルを導入することも述べられていました。より良い経営改善、処理場運転管理をするためにも自国にあったマニュアル作りをし、P-D-C-A サイクルを組み込んで活動してほしいと願っています。

4. ギリエルミさんからの便り



November 19, 2019

末田さん

日本で過ごした素晴らしい時から早くも 8 か月が過ぎてしまいました！

日本で培った知識を使い、日々の仕事改善に取り組んでいることの報告ができることを喜ばしく思っています。今日皆さんにお伝えしたいことは私が今何をしているか、私のアクションプラン（AP）がどのように進行しているかです。近況についてご報告します。

帰国後の活動報告

ブラジルに戻ってから、私は **Big Water Project** に携わっています。その予算額は、なんと日本円で 30 億円です！！ このプロジェクトは水道水の配水事業ですが、デザイン段階から制御、運転管理（O&M）の全てに携わっています。現在の段階は、建設業者が実施しなければならない作業の一部である、新しい施設の全ての分野（デザイン、建設、運転操作）に関係する O&M 指針を作ることです。

この Big プロジェクトは現在入札段階です。そして、私は O&M 問題対策の共同作業に携わっています。

私が（日本での）アクションプラン発表時に述べましたように、私は最初に直属の上司と数回の打ち合わせを持ち、その後、私たちに関係する O&M 計画を改良するための討議グループを立ち上げました。このグループでは 3 回の会合を持ちました。現在、異なる都市にある 4 か所の下水処理場のために、4 つの O&M 計画を立ち上げています。私は、このグループが、主に O&M 活動に関する設計分野での手続の改良をしてくれると期待しています。



維持管理グループ会議

それで、メンバーは操作過程に何が必要かを推測しましたが資料のいくつかは既になくなっていました。

このグループでの説明のほかに、同僚を集めた会合を二回持ち、JICAでの経験を彼らに伝えました。その内容は、JICAで学んだ5つのモジュールを示しながら、日本の技術はどのようなものか、日本の下水道事業はどのようなものかなどです。参加者はブラジルの下水道状況を考えるのにいい機会になったようです。会議では私が日本から持って帰った資料を共有いたしました。

またほかの機会では、大学で私の経験を披露しました。この時使った資料は私の職場で使ったものと同じです。しかし、この時は、彼ら学生に対し、日々の活動を考えてもらいたいこと、そのことが環境にどのような影響を与えることになるかを考えてもらいたいことを話しました。学生たちは大変喜んでくれました。



私がこのメールを送ったのは、私が日本で得た知識を使いながら仕事をしていることを皆さんに知ってほしいためです。 本当にありがとうございました。

いつかお会いしたいですね。もしブラジルの来る機会があればぜひ知らせてください。会いに行きますよ。ありがとうございました。

Guiherme

6. JICA-KITA 受入研修時の思い出

研修中のギリエルミさん（ピックアップ）

(2019/1/18～3/1)



下水管検査法の実習



講義終了後の記念撮影



研修「振り返り」のグループ学習



研修「振り返り」のグループ代表発表

以上